

日本研究・知的交流事業概観

① 日本研究機関の支援

各国において日本研究の中核的な役割を担う機関が、日本研究の基盤を強化し、人材を育成するために必要な様々な事業を支援しました。

① 拠点機関に対する重点的支援

タマサート大学(タイ)など海外7カ国の日本研究拠点機関に対し、出版・訪日調査・共同研究の経費助成や図書寄贈などの重点的支援を行いました(12件)。

② 客員教授派遣

デリー大学、モスクワ国立大学等、海外日本研究機関等に対して専門家を派遣。また、派遣経費の一部を助成し、教育基盤の強化を支援しました(28件)。

③ 教員スタッフ拡充助成

日本研究機関に対して教育職新規雇用のための経費を助成しました(5件)。

④ 研究・会議助成

海外18カ国で、日本研究を実施する教育・研究機関、学会などが実施する国際会議等に助成し、研究者間の多層的なネットワークの形成と強化を図りました(42件)。

⑤ 北京日本学研究所センター事業

北京外国語大学実施分では、日本人教授のべ25名を派遣しての講座運営のほか、大学院生・日本語教師の日本への招へい(31名)、研究・出版に対し支援しました。

北京大学実施分では、現代日本研究講座に日本人教授のべ13名を派遣したほか、大学院生・講座関係者を日本へ招へい(29名)しました。

② 日本研究フェロースhip(招へい)

海外27カ国64名の学者・研究者と14カ国36名の博士論文執筆者に長期フェロースhipを、20カ国37名の研究者に短期フェロースhipを供与することによって、日本での調査研究を支援しました。

③ 日本研究機関組織強化支援

研究者のネットワーク化・情報交換を推進するために、ロシア日本研究者協会およびヨーロッパ日本研究協会(EAJS)に対し、紀要発行、ウェブサイト運営経費などの支援を行いました(2件)。

④ 東南アジア元日本留生活活動支援

元日本留学生の対日理解促進を目的として、アセアン諸国の元日本留学生協会の活動に対して支援を行いました(8件)。

⑤ ウェブサイト「JS-Net」の運営

海外における日本研究者同志のネットワーキングを支援するウェブサイト「Japanese Studies Network Forum(JS-Net)」を運営。2005年度にはサイトをリニューアルしました。日本研究関連の国際会議やセミナー等の開催情報、関連機関やデータベースのリンク集、参考図書の紹介等、研究に必要な各種情報を英語で提供しました。2005年度年間アクセス件数は14万件。

⑥ 「日本研究書目」の刊行

海外の日本研究者のための英文総合文献目録「An Introductory Bibliography for Japanese Studies」を刊行。主要文献を、人文・社会科学の各分野における日本の学術動向に関するエッセイと文献解題で紹介し、「社会科学編」と「人文科学編」を毎年交互に出版。2005年度には第14巻2号を刊行し、90カ国850機関に配布しました。

⑦ 図書寄贈

海外の高等教育機関を中心とする82カ国180機関に、日本研究に役立つ書籍の寄贈を行いました。



<http://www.jsnet.org/>



③知的交流会議などの開催・支援

国際的な知的共同事業を開催したり、会議開催経費や参加者旅費の助成による支援を行いました。

①村上春樹シンポジウム(26頁参照)

②日中韓次世代リーダーシップフォーラム2005

日本と中国・韓国の3カ国における将来のリーダーの間の信頼関係を醸成することを目指し、韓国国際交流財団、中華全国青年連合会と共催で開催。3カ国の政界、財界、学界、メディア界から若手リーダーが3カ国を共に訪問し、参加者間のディスカッション、各国指導者・政策担当者との意見交換、視察、シンポジウム等を行いました。

③沖縄国際フォーラム

「アジア・パシフィック・フォーラム沖縄」

アジア太平洋地域の若手リーダーたちを日本に招へいし、日本の関係者と共通課題について話し合う国際フォーラムを開催。2005年度は「多元的社会と共生～地球市民への挑戦」をテーマに公開セミナーを実施しました。(12カ国から18名の参加)

④知的交流会議助成

11カ国で開催される51件の知的交流を目的とする会議の開催費用を助成しました。

⑤国際会議出席者助成

国際会議等に出席する専門家の招へい、派遣の経費助成を計16件行いました。

⑨知的交流フェローシップ

①知的交流フェローシップ(招へい)

現代社会の世界共通の課題を扱う海外の人文・社会科学の若手研究者に、日本との知的対話のネットワーク構築を目的として、訪日調査、研究の機会を与えました(18件)。

②知的交流フェローシップ(派遣)

現代社会の世界共通の課題に関する人文・社会科学分野の調査・研究を奨励し、日本の研究者にフェローシップを供与して、海外に派遣しました(23件)。

③アジア次世代リーダーフェローシップ

アジア地域に共通する課題の解決に取り組むことのできる人材を育成するため、日本の非営利団体スタッフや大学院生を対象に、アジアにおける調査・研究のためのフェローシップを供与しました(6件)。

④小渕フェローシップ

日米両国政府の合意に基づく「小渕沖縄教育プログラム」の一貫として、アジア太平洋地域と米

国の相互理解と関係強化のために設立された米国の研究所「東西センター」での共同研究のため、人文・社会科学分野の、沖縄の研究者等に対してフェローシップを供与しました(5件)。

⑤アジア・リーダーシップ・フェローシップ(ALFP)

アジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム開始10周年を迎えた2005年度は、これまでにアジア諸国から同プログラムに参加した54名のフェローのうち、12カ国から39名が福岡と釜山に会し、コミュニティとしてのアジアが抱える現状と歴史的側面を含めた課題について語り合うユニオン(同窓会)を実施しました(2005年6月26日～30日)。「Asia as a Community: Concept or Reality?」を総合テーマに、アジアという概念をどのように捉えるか、歴史と記憶の問題を乗り越え地域の安定化に向けていかにアジアの市民社会に協働の動きをつくれるか、グローバル化による様々な影響とアイデンティティの問題、オルタナティブな声を汲み取るメディアの役割、といった幅広いトピックについて様々な視点から意見が交わされました。また、プログラムの10周年を記念して、ALFPでは過去にプログラムに参加したフェローの最新情報を集めたALFP Alumni Directoryを発行しました。

⑩アジア地域研究センター支援

東南アジア研究地域交流プログラム(SEASREP)

東南アジア諸国における東南アジア研究の促進と各機関の学術ネットワークの構築を目的に東南アジア4カ国の8大学のプロジェクトを支援しました。

また、東南アジアの学生に対する東南アジア研究の講義「アジア・エンボリウム」をタイにおいて開催。6カ国15名が参加。

⑪日米センター

①知的交流プログラム

日米知的交流の担い手の拡大をめざし、グローバルな課題を扱う日米共同研究・対話プロジェクトを32件支援しました。

②市民交流プログラム

日米間の地域・草の根レベルの交流プロジェクト26件に対して、助成を行いました。また、米国各地で推進される地域活動を支援するため、26件の小規模助成を行いました。

③教育を通じた相手国理解促進プログラム

米国における日本理解、日本における米国理解を、初等・中等レベルで促進するプロジェクト8件に対して、助成を行いました。

